

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム 団欒
(ユニット名)	A棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市梅田町110-12
記入者名 (管理者)	吉田 ツヤ子
記入日	平成 19年 9月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	団欒の理念は「もっとやさしく、もっと温かく」である。	<input type="radio"/>	今後ともこの理念を伝えることを努めていきます。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、実践にむけて日々取り組んでいるが、まだ十分とはいえない。	<input type="radio"/>	理念について、もっと話す機会を持つようにしたい。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には理解されていると思うが、地域の方までには至っていない。	<input type="radio"/>	地域の方々にももっと理解してもらえるよう、もっと多くホーム便りを回覧してもらいなどし、当ホーム主催行事等の参加の呼びかけを行っていきます。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者の方々と一緒に地域の商店での買物や牛乳配達を受けるなど日常的な取組みを行なっている。しかし気軽に立ち寄ってもらうまでには至っていない。	<input type="radio"/>	今後利用者の方との散歩等で、近隣所との交流をもっと広げ、顔馴染みの関係になるような日常的な付き合いが出来るように努めます。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の方や近隣の保育園との交流を行なっている。おもに夏祭りなどの行事の参加などを行って、交流に努めている。	<input type="radio"/>	今後は行事の際だけでなく、地区清掃などを行い、日常的な交流を行なうように努めます。

グループホーム団欒 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者等の家族へ協力できることがあればと自治会役員の方々などに話しているが、まだ取り組めていない。	○	地域の方々にパンフレット、新聞などを使って呼びかけをしていきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし、一つ一つ改善に取り組んでいる。	○	評価項目の改善に向けた話し合いをの今後も続けていきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中で毎回 ホーム内の状況などを話すようにしている。また寄せられた意見等を前向きにとらえ、実践に取り組んでいる。	○	各代表の方々からの意見や要望をもっと多く伺い、サービスの改善に役立てたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	講習事業を受けているなど、積極的な交流に努めているが、行き来するまでには及ばない。	○	今後は団欒を講習会の場として利用してもらうなど、さらなる交流に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、過去に一度実例がある。	○	学ぶ機会をもち、必要な方にはそういった制度を活用できるよう支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣などの際にボディチェックを行うなど、職員間で見過ごさないように心掛けている。	○	これからも利用者さんの変化に注意して見過ごさないように努めたい。

グループホーム団欒 A棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所・退所時の他、面会や入・退院時に十分な説明をしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も随時、利用者や家族などの不安や疑問点に対応できるようにしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や利用者との相談業務を通じて意見を受け入れようとしている。意見箱への投函件数は少ない。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議等で話し合いができるように今後とも努め、運営に反映させていきます。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話連絡にて報告している。</p>	<p>○</p> <p>面会時に預かり金の出納帳の確認を行ってもらうようにしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会アンケート及び意見箱などを通じて行っている。意見や苦情があった場合はすぐに対処するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>面会時や家族会など意見交流の機会を通じ、今後も受け入れていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は日々話し合いの他、月1回の会議において職員の意見や提案を運営者に伝え、運営者は各職員の意見を聞き取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>今後は多くの提案を聞き入れて、一つ一つ改善に向けて取り組んでいきます。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>2ユニットの利点を活かして、ユニット間で人員配置を調整し、主に受診や外出に対応している。</p>	<p>○</p> <p>今後も柔軟な対応ができるように調整していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ない事情の場合の異動に限るよう努めている。また利用者への声かけなども配慮している。</p>	<p>○</p> <p>これからも必要最小限に抑えるよう努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務者研修など事業所内外の研修制度がある。また通信教育を受ける職員に対する配慮もある。</p>	<p>○</p> <p>さらなる質の向上を目的とし、事業所内外での勉強会などの機会を多く確保し、人材育成に努めていきます。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連事業所があり、頻繁に交流している。また他の事業所の方とも、GH連絡協議会などを通じて行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後とも関係を継続していき、互いに向上できるようにしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内に5ユニットあるため、各ホーム長から話を聞き、職員の様子を把握するように一つ一つ改善を行っています。</p>	<p>○</p> <p>職員のストレス軽減に向けお互いに助け合いができるよう今後とも交流を図っていきます。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日頃から把握できるよう報告・連絡・相談を常に行えるよう努めている。また職務態度を評価基準とした給与査定を行ない、向上心を引き出すよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>研修機会などを、更にもうけるように努めていきます。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問調査を行っている。契約時にも十分に話を伺うように努めている。</p>	<p>○</p> <p>もっと多くのニーズを把握できるよう努めていきます。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問調査を行っている。契約時にも十分に話を伺うように努めている。</p>	<p>○</p> <p>もっと多くのニーズを把握できるよう努めていきます。</p>

グループホーム団欒 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が今一番に必要としているサービスを見極め、利用につながるよう心掛けている。	○	今後も利用者、家族とのコミュニケーションをはかっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心感をもって馴染めるよう、利用者、家族との連携を取り、努めている。しかしまだ十分ではないと思われる。	○	今後(介護予防)認知症対応型通所介護や、空きがあれば短期利用(ショートステイ)も勧めていきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常家事を一緒に行うことを通して学ばせて頂いている。	○	今後はもっと、支えあう関係作りをみつけ、喜怒哀楽を共にするよう努めていきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事などへの参加を声かけている。	○	ともに考え、共に支えていく努力を続けていきます。行事参加だけでなく、利用者・家族職員で料理料理作りや工作などにも一緒に取り組んでいきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に家族を招待しながら、より良い関係の継続に努めている。	○	今後とも関係を維持できるよう、面会時、行事等に今より以上より良い関係が築いていけるよう努めていきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や食堂などに出向く機会をつくるなどしているが、まだ十分とは思えない。	○	利用者さんとの交流をもっと多く行い、関係継続に努めていきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努力しているが、十分ではない。	○	居室異動や座席異動をするなど工夫していきます。

グループホーム団欒 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中にお見舞いに行ったり、退所後も連絡を取る等、利用者・家族との関係継続につとめているが、不十分なところもある。	○	今後は挨拶に行ったり、電話・手紙を使って連絡をするなど、工夫し断ち切らないお付き合いを大切にしていきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は聞き入れるよう努力しているが、まだ不十分である。	○	要望を聞き入れていく努力をしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや調査表を用いて、職員が把握できるように努めているが、十分ではない。	○	本人・家族・知人などからの情報収集に努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会話や日常生活の様子などをケース記録、業務日誌に記入し、職員全員で把握できるように努めている。	○	もっと詳しく利用者の様子をみていきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で話し合い作成している。また主治医とも意見交換を行なっている。	○	もっと本人、家族と話し合う機会をつくり、利用者本位の介護計画を作成します。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合には、新たな計画を作成している。	○	今後も利用者の状況に応じて話し合う機会をつくり、もっと利用者 に即した介護計画を作成していきます。

グループホーム団欒 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録は行っている。申し送りにて情報の共有は出来ているが、十分には活かせてないと思われる。	○	新たに気づきノートを備え、もっと記録などを活用していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の方々の要望に応じた支援をしている。	○	今後も利用者一人ひとりに応じた支援を出来るよう努力していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などへ民生委員や近隣の保育園の方を招待するなどして連携に努めている。	○	ボランティアの受け入れなどを積極的に行ないたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	関連事業所があり、頻繁に交流しているが、他のサービス利用は活用していない。	○	今後は必要があれば、必要な方に情報提供したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は出来ていない。	○	利用者・家族の必要に応じて活用する時に備えて、支援センター職員と話す機会をつくるなど、今後努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院に限らず、利用者・家族が望む医療をうけてもらうようにしている。	○	今後も利用者・家族の意向を大切にしていきたい。

グループホーム団欒 A棟

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携をとる際、病変だけでなく生活状況などについて相談をしている。	○	今後とも医療と介護の協働を図り、安心してもらえる連携体制を維持するよう努めます。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間体制の訪問看護ステーションとの連携をとっている。法人内の看護職員と気軽に相談できる関係をもっている。	○	今後とも相談などを密に行ない継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の話し合いで主治医・看護職等と情報交換を密にするように努めている。	○	今後とも継続して連携していきます。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状説明を家族と共に聞くようにしている。また看取りについての指針を説明し、本人および家族の意思を尊重して共有している。	○	病状に対する本人及び家族が抱える不安を緩和できるように支援します。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心して納得した最期を迎えられるように、取り組んでいる。また医療連携体制をとっている。	○	今後とも連携体制の充実を図り、利用者及び家族が安心できるように努めます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と連携をとりながら、望まれる生活ができるように情報交換を行うように心掛けている。	○	今後も情報の取り扱いに注意しながら、十分な情報交換に心掛けます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保に努めている。個人情報には細心の注意をはらっている。	○ 今後もプライバシーの確保に努めます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望にあわせた食事メニュー(パン食等)をとりいれたり利用者の自己決定を尊重している。	○ 今後も利用者の望むサービスを取り入れます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝起床時間を本人のペースに合わせてたりするなど希望にそって支援するようにしている。	○ それぞれにとって心地よいペースの把握につとめたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一緒に服を選んだり、本人の望む理容・美容店に行ける整容に気掛けた支援をしている。	○ 身嗜みには十分に心掛けて、ハリのある生活を送っていただけるように努めたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどを一緒に行ってもらっている。また職員も一緒になって食事をしている。	○ これからも残存能力を活かす支援や、ハリのある生活を送って頂けるように努めたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査を行い、一人ひとりの状況に合わせて支援している。	○ 今後も体調に配慮しながら支援していきます。

グループホーム団欒 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の状況に合わせて排尿チェックを行い、こまめにトイレ誘導をしている。	○	自然的な声かけをし、失敗を未然に防ぐように心掛ける。またオムツ類に頼ることのないケアにも努め支援していきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂を沸かしており、入浴時間や入浴日は本人の希望に合わせておこなっている。	○	これからも本人の生活習慣に合わせて、また体調などに配慮しながら継続していきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息が必要と汲み取れる方の昼寝の時間をもうけたりするなど利用者の状況に合わせておこなっている。	○	今後も利用者の状態を見ながら、心地よく過ごして頂けるよう努めます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩に付き添ったりするなど本人が楽しんで出来ることを支援している。	○	利用者や家族からの情報をもっと多く収集し、利用者が役割・楽しみごと・気晴らしが出来るように支援していきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方に手持ちしてもらうなど、利用者の状況に合わせておこなっている。	○	今後も利用者の状態を見ながら支援していきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るかぎり希望にそえるようにしているが、十分ではない。	○	家族等の協力を得ながら、もっと希望にそえるように努めます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	法事等の用事等に送迎するなどするなど、希望ある時の外出の支援をおこなっているが、十分でない。	○	家族等の協力を得ながら、出来るだけ希望にそえるように努めます。

グループホーム団欒 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。	○	時折、家族等に本人から手紙を送るなど、状況に合わせて支援していきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に話が出来ると雰囲気をつくれるように挨拶などを心掛け、便りを家族に発送したりしている。	○	もっと気軽に立ち寄ってもらえるように行事などを多く行う必要がある。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、職員が共有認識をもっている。	○	今後も拘束しないケアを行うよう努めます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は利用者の安全を考慮し施錠している。施錠に関しては説明のもと同意を得ている。	○	玄関の開錠にむけて検討したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中夜間ともに、職員は見守りやすい位置にいて、利用者の様子をうかがえるよう気掛けている。	○	今後もこまめな巡回などを行い、居室内での様子もうかがえるように努めます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	喫煙をされる方もおり、喫煙場所をもうけるなど、利用者の状況に合わせておこなっている。	○	今後も危険性に十分に配慮しながら、抑制をしない方法を考えるように努めます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各スタッフが細心の注意を払っている。	○	ヒヤリ・ハットやアクシデント事例を定期及び緊急に検討する行いをし、事故防止に努めます。

グループホーム団欒 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は全ての職員が出来ているが定期的な取り組みはない。マニュアルを掲示して緊急時に備えている。	○	消防等の各機関と協働する。講習会などに参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の非難誘導訓練を行っているが、地域の方の協力までは至っていない。	○	近隣の方との繋がりを深め、協力してもらえるように働きかけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の恐れがある方などへの対応を家族にわかりやすく説明するなど、利用者の状況に合わせておこなっている。	○	今後とも起こりうるリスクに対し、細心の注意をしていきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な様子でも気づいたことは申し送りを入念に行い、主治医やナースに相談連絡をしている。	○	今後とも細心の配慮をするように努めます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人ファイルに閉じており、把握できるようしている。	○	薬やその人の病気についての認識を深めるように努めたい。又、誤薬などの事故がないように、薬の取り扱いには十分に注意します。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、便秘時の対応に注意している。水分補給を行う働きかけには、特に心掛けている。	○	今後とも医療関係者と連携を図り、便秘について細心の注意をしていきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアや毎日の義歯の消毒などを行っている。また利用者も習慣として自らされている。	○	磨き残しのチェックなどを必要に応じて行うなど、清潔保持に努めます。

グループホーム団欒 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事形態やこまめな水分補給を行っている。	○	一人ひとりにあった支援を心掛けていきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・利用者ともにMRSA検査・大腸菌検査などを行っている。	○	感染予防マニュアルの充実を図り、今後も手洗い・うがいを十分に行います。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い・うがいなど実行している。食事前には必ず食毒も行っている。食材選びには特に気をつけている。	○	今後も細心の注意を行って衛生管理を行います。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木鉢などを置いたり、家庭的な雰囲気が出るようにしているが、駐車スペースが少ない。	○	工夫して来客用の駐車スペースを確保したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの目隠しに暖簾を使ったりし、家庭的な雰囲気作りに心がけている。	○	利用者の手作り作品などで季節感の味わえるような飾りをしていきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段踊り場に雑誌を置いたり、ソファー・畳スペースをつくるなど、くつろげる環境づくりに工夫している。	○	継続して利用者の意見を聞きながらユニット間の交流を気軽に行えるように工夫していきます。

グループホーム団欒 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた愛着のある物、馴染みの家具(仏壇など)の持ち込み等を自由に居室に持参されている。	○	時々家族や本人と一緒に模様替えなどを行っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	芳香剤などを使用したり、換気を天候など状況に合わせて行っている。	○	利用者に不快感を与えないように換気には注意するよう心がけます。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。また廊下になどに手すりをつけている。歩行状態などにより居室配置を考慮するなど工夫している。	○	利用者の状況に合わせて、手すり設置など必要に応じて対応していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかりやすいように居室に表札を掲げたり、館内にホームの案内や便りを掲示している。	○	混乱や失敗があったときは、対応の仕方について話し合う機会を持ちます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑などもあり、土いじりされたり、洗濯干しなど職員と一緒にされている。	○	今後も声かけをしていきます。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者本位のサービス提供を第一に心掛け、日々の反省と感謝の念をもつようにしている。
- ・夏祭りなどの町内行事や町内清掃に、利用者さんと一緒に参加している。 ホームにおける催しを行い、町内役員の方、近隣の保育園の方を招待している。他に保育園の行事にも参加をするなど、できるかぎり地域にとけ込んだ認知症の方の介護を行いたいと考えている。
- ・広報紙を町内で回覧してもらおうなど、ホームの様子を知ってもらい、気軽に来訪してもらえるように努めている。